



子宮頸がん
ワクチン

全額助成、来月実施へ

東京・江戸川区

東京都江戸川区は、区内の女子中学生全員を対象に、子宮頸がん予防ワクチンの接種費用を全額助成することを決めた。中学生全員への全額助成は区内では初めて。20歳女性にも半額補助する。助成に必要な予算は約1億6000万円を予定しており、自治体の助成額としては全国でも最大規模。きょう開会予定の区議会定例会に提出される補正予算に計

上し、実施は今年7月1日から。対象人数は、区内に住民票がある女子中学生全員で約9400人。必要とされる3回分の接種料金4万8000円を区が全額助成す

る。予防接種受診票が対象者全員に郵送されるほか、区の広報やホームページなどでも普及啓発に努める。区では、今年度の受診率は約5割を見込んでいた。また、半額助成の対象は、区内に住民票がある20歳の女

性約2800人。区は1割が利用すると見込んでいた。子宮頸がんは女性特有のがんで、日本では毎年約3500人が命を落としているが、検診と予防ワクチン

のセットではほぼ100%予防できるとされている。10代前半の女兒へのワクチン接種が最も効果的とされるが、掛かる費用が高額なため日本での受診率は非常に低い。江戸川区医師会の徳永文雄会長は、子宮頸がん

予防ワクチンについて「ワクチン史上、画期的なワクチン。区からの積極的な助成は、子宮頸がんの予防にとって役割は大きい」と述べている。

江戸川区議会公明党（川瀬泰徳幹事長）では、今年2月の定例会で「子宮頸がん予防ワクチンの公費助成」を主張。これに対して多田正見区長は、「なるべく早く実現したい」と答弁していた。また、5月11日にも区に対し、同ワクチンの公費助成を求める要望書を提出する

都内初 中学女子全員が対象 20歳女性にも半額補助

のセットではほぼ100%予防できるとされている。10代前半の女兒へのワクチン接種が最も効果的とされるが、掛かる費用が高額なため日本での受診率は非常に低い。江戸川区医師会の徳永文雄会長は、子宮頸がん

など実現を力強く推進していた。

川瀬幹事長は「なるべく多くの方に受診していただき、受診率が予想を超えるような場合は、さらに補正予算などを求めていきたい」と語っている。

多田区長（中央右）に対し、子宮頸がんワクチンの公費助成を要望する区議会公明党のメンバー＝5月11日

区議会公明党が強く推進 予算額は全国最大規模